

学校の概要（平成15年4月現在）

清武町立清武中学校（学力向上フロンティアスクール）						
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	職員数
学級数	5	4	5	1	15	29
生徒数	181	145	171	2	499	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本を身につけ、自ら学び・自ら考える生徒の育成
～ 個に応じた学習指導の工夫・改善を通して ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

本校の場合、特定の教科や学年での研究ではなく、全教科・全学年で研究を進めていった。また、本年度より全職員による研究授業を行い研修をする機会を増やした。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ	基礎・基本を身につけ、自ら学び・自ら考える生徒の育成 ～ 個に応じた学習指導の工夫を通して ～
	仮説	学習指導の場において、個に応じたさまざまな学習指導及び意欲を高める評価のあり方を工夫することにより、基礎・基本が身につけ、自ら学び自ら考える生徒を育成することができるであろう。
	研究内容・方法	
	1. 研究内容	
	(1) 学力に関する研究	
	ア 本校における、語句の定義・基本的な考え方	
	イ 標準学力検査等の分析	
	ウ アンケートの実施（生徒・教師）	
	エ 生徒は、実態把握	
	オ 教師は、職研後のアンケート等で、意見を聞く	
	(2) 基礎基本を確実に身につけるための研究	
	ア 学習の手引きを作成し、生徒に配布する。	
	(3) 個に応じた学習指導（各班でそれぞれ研究を進める）	
	ア 指導過程の研究（問題解決的な学習）・指導案形式の検討	
	イ 学習形態の工夫（少人数・習熟度別・課題別・興味関心別等）	
	ウ 教材・教具の工夫	
	エ 評価の工夫（評価基準表の作成・評価カード・評価表の作成等）	
	(4) 家庭・学校・地域との連携	
	ア 地区学力向上委員会との連携	
	イ 家庭との連携（基本的生活習慣の確立）	
	(5) その他	
	ア ホームページの作成	
	イ 教育課程の見直し	
	2. 方法	
	(1) 研究推進委員会	研究計画、研究内容の企画・立案及び研究推進の調整を行う。
	(2) 全体研究会	全職員への研究全体の推進、研究内容の検討及び確認、研究全体の連絡調整、共通理解を行う。
	(3) 班別研究会	班別に研究計画や内容等を研究し、研究の推進にあたる。

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本を身につけ，自ら学び・自ら考える生徒の育成 ～ 個に応じた学習指導の工夫・改善を通して ～</p> <p>仮説 学習指導の場において，学習環境を整備し，個に応じたさまざまな学習指導及び評価の在り方を工夫・改善することにより，基礎・基本が定着し，自ら学び自ら考える生徒を育成することができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 1．研究内容 (1) 授業（指導方法の工夫改善） ア 問題解決的な学習の取組 イ 少人数指導の充実 ウ ガイダンス機能の充実（学習の手引きの利用） エ 選択教科における補足的な学習の充実 (2) 評価（指導と評価の一体化の工夫）・生徒の実態把握 ア 年間評価計画の作成（多様な評価の導入） イ 授業改善アンケートの実施 ウ 生徒の生活面・学力面に関する実態把握と分析 エ 基礎・基本の学習プリント（マスターシート）の作成 オ 自己評価・相互評価の工夫 (3) 学習環境整備（主体的な学習を支える環境の整備） ア 掲示の工夫（廊下・掲示板の設置） イ 学習の手引きの作成 ウ 図書室の整備 エ パソコン室の整備 オ 空き教室の利用の工夫 カ 校内放送の充実</p> <p>2．方法 (1) 研究推進委員会 研究計画，研究内容の企画・立案及び研究推進の調整を行う。 (2) 全体研究会 全職員への研究全体の推進，研究内容の検討及び確認，研究全体の連絡調整，共通理解を行う。 (3) 班別研究会 班別に研究計画や内容等を研究し，研究の推進にあたる。 (4) 教科別研究会 班別研究会での内容を，各教科で研究実践していく。 参考文献及び資料 平成13年度 熊本県八代郡竜北中学校 研究紀要</p>

平成16年度	<p>テーマ 基礎・基本を身につけ，自ら学び・自ら考える生徒の育成 ～ 個に応じた学習指導の工夫・改善を通して ～</p> <p>仮説 学習指導の場において，学習環境を整備し，個に応じたさまざまな学習指導及び評価の在り方を工夫・改善することにより，基礎・基本が定着し，自ら学び自ら考える生徒を育成することができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 1．研究内容 (1) 授業改善（基礎・基本の定着を図る手立て・きめ細かな指導） ア フラッシュカード・ホワイトボードの利用 イ マスターシートの活用 (2) 評価（指導と評価の一体化の工夫）・生徒の実態把握 ア 観点別評価表の作成と授業での活用 イ 自己評価・相互評価の工夫 (3) アンケート・調査（生徒の実態把握と変容を知る） ア 授業改善アンケートによる授業の改善・実態調査</p>

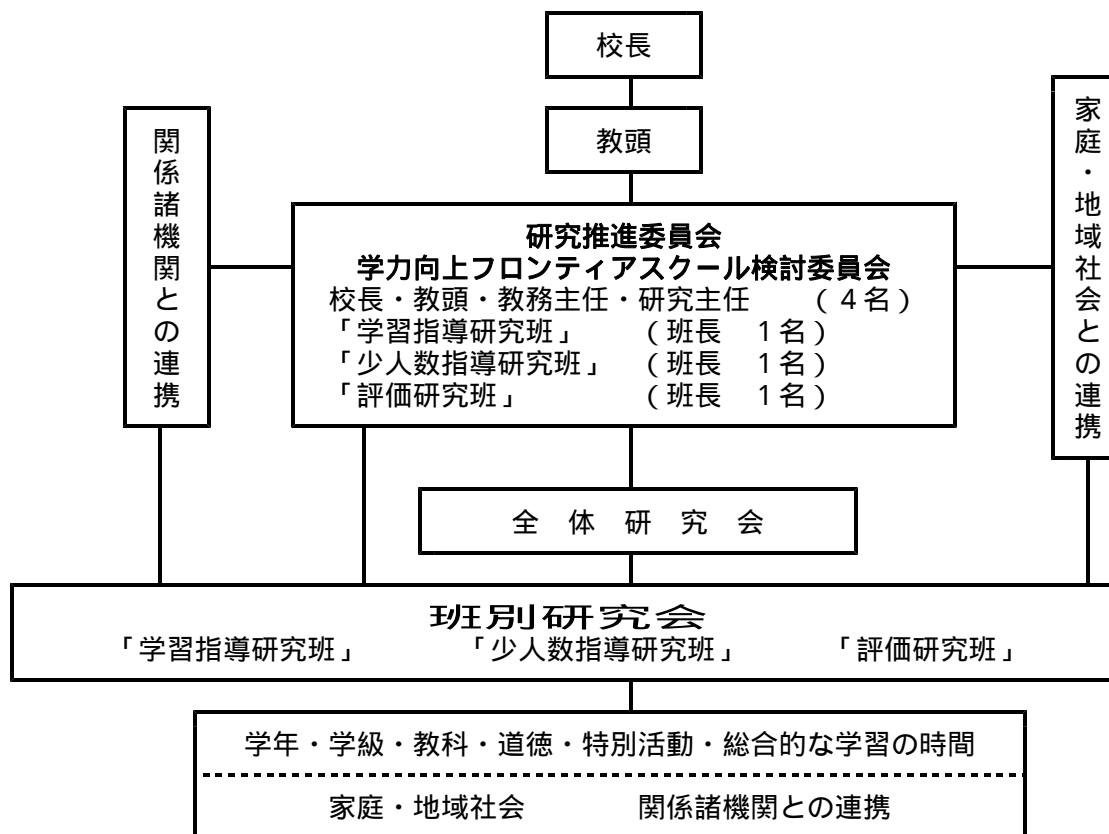
その他研究以外での学力向上の手立て（15年度までの取組を生かす）

- ・ 学習環境の整備（掲示板・校内放送）
- ・ フロントアタイムの実施
- ・ 選択教科の履修コースの多様化
- ・ 「学習の手引き」による基本的な学習習慣の確立及び家庭学習の充実
- ・ 参観週間
- ・ 読書週間
- ・ 学習態度確立週間等

2. 方法

- (1) 研究推進委員会 研究計画，研究内容の企画・立案及び研究推進の調整を行う。
- (2) 全体研究会 研究全体の推進，研究内容の検討及び確認，研究全体の連絡調整，共通理解を行う。
- (3) 班別研究会 班別に研究計画や内容等を策定し，研究推進の主軸を担う。
- (4) 教科研究会 班別研究会での内容に基づき，各教科で実践研究を行う。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 学力向上を図るため、教育課程全般を見直すことにより、授業の改善が図られたことはもとより、学校全体において学力向上の雰囲気づくりができた。具体的な取組としては、フロンティアタイム・給食時間の放送・各教科の掲示板などが挙げられる。
- (2) 昨年度は、各班・各教科単独の研究であったが、今年度は、各班の研究の内容を全教科に生かすことができた。
- (3) 教師だけの考えで研究をすすめるのではなく、生徒や保護者からとったアンケートを、授業改善に生かすことにより、生徒にとってわかりやすい授業の実践ができるようになった。
- (4) 教師相互が、共通理解・共通実践を行うことにより、授業の充実が図られ学校全体が落ち着いてきた。

2. 今後の課題

- (1) 全職員が、各班・各教科・各学年のいずれにも属するという研究組織であったため、研究の時間が少なく研究が深まらない部分があった。次年度に向けて研究組織の見直しが必要であると考えられる。
- (2) 中間発表会までに推進してきた研究成果について、更に研究授業などの実践を通して、深めていきたい。
- (3) それぞれ実践したことに関して、アンケート調査等により本当に効果があったのか、生徒の学力向上に結びついたのかを客観的に確認する必要がある。

学力把握のための学校の取組について

- ・ 標準学力テストの実施（全学年・年1回・4月実施）
- ・ 教育課程実施調査（2年生・年1回・12月実施）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

学力向上フロンティアスクール研究成果中間発表会
日 時：平成15年12月1日（月）
場 所：清武町立清武中学校
対 象：主に宮崎教育事務所管内の教諭
目 的：清武中学校取り組んできた内容を他校に広めるため
内 容：公開授業及び授業研究会・清武中学校の取組について

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	